



# インフラ

11.1	交通と輸送	111
11.2	通信	115
11.3	エネルギー	116
11.4	水	116
11.5	郵便制度	117
11.6	健康医療制度	117

# 11

緻密に張り巡らされた道路、鉄道、航空の交通網によって、スイスは欧州の交通インフラにしっかりと組み込まれています。鉄道や飛行機の便数が多く、時間も正確です。そのため、旅客と貨物の円滑で効率的な輸送を確実に行うことができます。また、エネルギーや水の供給、通信サービス、郵便サービスは常に確実です。更に、充実したヘルスケア制度により、住民は遠方へ出向くことなく、地域で治療を受けることができます。

## 11.1 交通と輸送

スイス経済は、物品・サービス供給のための充実した交通インフラに支えられています。1km<sup>2</sup> 当たり1.7kmの道路があり、欧州で最も発達した道路交通網を誇っています。それでもやはり、スイスといえば鉄道の国です。特に、国有鉄道の路線の総延長距離は、高速道路の3倍にもなります。

連邦政府の交通政策は、ビジネス拠点としてのスイスの魅力を高めると共に、環境に配慮しながら増加する物品や人の移動の問題を解決していくことに重点を置いています。

[www.uvek.admin.ch](http://www.uvek.admin.ch)

連邦環境・運輸・エネルギー・通信省 (DETEC)

### 11.1.1 道路交通

スイスは、世界で最も高速道路網が発達している国のひとつです。現在開通している高速道路は、総延長距離2,254kmで、スイスの全地域を結んでいます。特筆すべきは、トンネルの多さです。現在280本のトンネルが開通しています。スイスの高速道路の4分の3以上は、4車線(上下2車線ずつ)となっています。また、高速道路は、欧州を結ぶ国際的な主要幹線ルートでもあります。ゴツタルドトンネルを経由してドイツとイタリアを結ぶルートは、欧州きっての幹線道路となっています。

スイスの高速道路(アウトバーン)を利用する際は、国籍を問わず重量3.5トン以下の車両の場合、特別な高速道路用ステッカー、つまり「ヴィニエツト」と呼ばれるステッカータイプのチケット(現在の価格は40スイスフラン)を購入する必要があります。このステッカーは1月1日-12月31日の1年間有効で、税関や郵便局、ガソリンスタンド、高速道路のサービスエリアで購入できます。ゴツタルドとサンベルナルディーノを結ぶアルプス縦断トンネルの通行には、別途トンネル通行料はかかりません。

国内外のトラック(物品運搬用の総重量が3.5トンを超える車両)には、大型車両通行税(LSVA)が課されます。総重量に加え、排出ガス規制区分(Euro 6)スイスおよびリヒテンシュタイン公国内の走行距離によって料金が決まります。ドイツ国境からイタリア国境まで(バーゼルからキアッソまで約300km)の最もよく使われる輸送ルートでは、40トントラックの場合、排出ガス規制区分に応じて約270から370スイスフランがかかります。また、夜間(午後10時から午前5時)および日曜日は、トラックの走行は禁じられています。

[www.astra.admin.ch](http://www.astra.admin.ch)

連邦道路局(FEDRO)

[www.strassenverkehrsamt.ch](http://www.strassenverkehrsamt.ch)

州道路交通局

[www.ezv.admin.ch](http://www.ezv.admin.ch) > Information companies > Taxes and duties

走行距離に基づく大型車両通行税に関する情報

[www.swisstunnel.ch](http://www.swisstunnel.ch)

地下建設の専門グループ

### 11.1.2 鉄道

時間に正確で、信頼できる公共交通機関を誇るスイスは、欧州で最も鉄道旅行が盛んな国です。毎日11,000本を超える列車が、SBB(スイス連邦鉄道)が運営する3,200kmの鉄道網を運行しています。スイスにはSBBの他にも複数の民間鉄道会社があり、総延長は2,000km余りに達しています。スイスの鉄道網は、欧州最高の稼働率を誇りながらも、時間に極めて正確です。2021年の記録によると、旅客列車の91.9%が、各駅の予定到着時刻から3分以内に到着しています。住民と環境を保護するため、将来的に道路から鉄道へと貨物輸送の移行を進めていく計画です。

3つの主要鉄道プロジェクトは、スイスと欧州に中長期にわたって大きなメリットをもたらすことになるでしょう。輸送力の強化、一般道や高速道路を利用する旅客と貨物輸送の削減、繊細な生態系を有するアルプス地方の保護、保全に寄与します。

- 「ZEB」：総額54億スイスフランの「鉄道インフラの将来的発展 (ZEB)」プロジェクトは、100件以上のインフラプロジェクトが認可済みで、2025年までに実施される予定です。これらのプロジェクトは、鉄道網の運行頻度と輸送能力を向上させるための措置です。
- アルプス・トランジット/NRLAプロジェクト：アルプスを縦断するレッチェベルク線とゴッタルド線の2つの新しい線は、南北を結ぶ新たな高速列車の運行を可能にし、輸送能力の大幅な拡大とサービス向上を図ることが狙いです。2007年に完成したレッチェベルク・ベーストンネルは全長34kmあり、毎日50本の旅客列車が時速250kmで走行しています。これにより、ヴァレー州およびイタリア北部からも、スイス中心部にアクセスしやすくなりました。現在、ミラノーベルン間の所要時間はわずか3時間です。新しいレッチェベルクのベースルートは、アルプスを縦断する貨物輸送を道路から鉄道へと転換するという、スイスの交通政策において、重要な役割を担っています。輸送能力が大幅に向上するうえ、トンネルの断面の大型化により大型貨物列車の通行も可能になります(シャトルプロファイル)。アルプス・トランジット計画、通称「NEAT」は、段階的に進められました。2016年6月1日に開通したゴッタルド・ベーストンネルは、57kmと世界最長です。
- 欧州の高速鉄道網との接続：欧州の高速鉄道網(TGVやICE)との接続により、スイスは将来欧州の高速鉄道網にとって最も重要な拠点となるでしょう。スイス政府は、2020年末までに、総額11億スイスフランを投じ、欧州の高速鉄道網との接続を強化しました。その結果、スイスからパリ、リヨン、ミュンヘン、ウルム、シュトゥットガルトへの所要時間が短縮されます。

[www.sbb.ch](http://www.sbb.ch)  
スイス連邦鉄道(SBB)

[www.bav.admin.ch](http://www.bav.admin.ch)  
連邦運輸局(FOT)

### 11.1.3 船舶

船舶は、スイスの観光だけでなく、国際貿易においても重要な役割を果たしています。世界でも非常に交通量の多い水路であるライン川の源流はスイスにあります。国際法的に保証されている北海へのアクセスと、遠洋航海船団を有するバーゼルの内陸港は、スイスの輸出入の重要な拠点となっています。ライン川にあるスイスの港では、年間およそ550万トンの貨物と、12万個のコンテナが取り扱われています。スイスの対外貿易の3.5%以上がライン川を通じて行われています。それに対し、航空貨物が対外貿易に占める割合は2%未満です。ただし、旅客輸送分野における船舶は、観光・行楽においてのみ、重要な役割を果たしています。スイスの水域の旅客輸送量は、年間約1,300万人です。

[www.port-of-switzerland.ch](http://www.port-of-switzerland.ch)  
スイスのライン港湾

[www.bav.amdin.ch](http://www.bav.amdin.ch)  
連邦運輸局(BAV)

#### 11.1.4 航空

チューリヒ空港は、欧州で最も重要な交通拠点のひとつです。チューリヒ空港で提供されているサービスは、利用客に定評があります。毎年発表される空港ランキングで常に上位に入っていることが、それを物語っています。2021年には、利用のしやすさ(ユーザーフレンドリー)および品質基準が評価され、ワールド・トラベル・アワードにて18回連続となる欧州最優秀空港賞を受賞しました。2011年には、大規模で整然とした環境管理システムが評価され、エコ・イノベーション賞を初めて受賞しています。また、排出ガス量に応じた着陸料を導入した最初の空港でもあります。

チューリヒ空港の毎年の利用客は、およそ3,000万人です。一年の貨物量は、およそ450,000トンにも上ります。チューリッヒ空港からのフライトは、70か国200都市もの先々に就航しています。スイスには、チューリヒ空港のほか、ジュネーブ空港とユーロエアポート(バーゼル空港)の2つの国際空港があり、欧州の主要なビジネスの中心地や観光地に多くのフライトが運航されているほか、海外への直行便も豊富です。

隣国に程近い国境地帯に3つの国際空港があるおかげで、スイスを経由するEUとの国際貿易の推進につながっています。これらの空港周辺地域の輸出企業にとって、空輸は、貨物輸送手段として重要な役割を果たしています。輸出製品の主力は、特殊化学製品や医薬品、ハイテク製品、自動車部品、生鮮食品などです。

スイスの航空貨物の4分の3余りが、チューリヒにある貨物ハブで取り扱われています。しかし、速達便や国際宅配便を中心に、ジュネーブ空港そしてユーロエアポートの2つの国際空港の貨物輸送窓口としての重要性も高まっています。世界有数の速達便、小包、宅配便サービスも、着実に量的拡大を見せています。

ベルン、ルガーノ、ザンクトガレン・アルテンラインなどの地方空港も、欧州の各都市への便利な定期便を毎日運航しています。シオン空港やサンモリッツ・サメーダン空港には、ビジネス・レジャー向けの季節運航便が発着しており、観光に便利だけでなく、サービス業界全体の時間の削減に貢献しています。

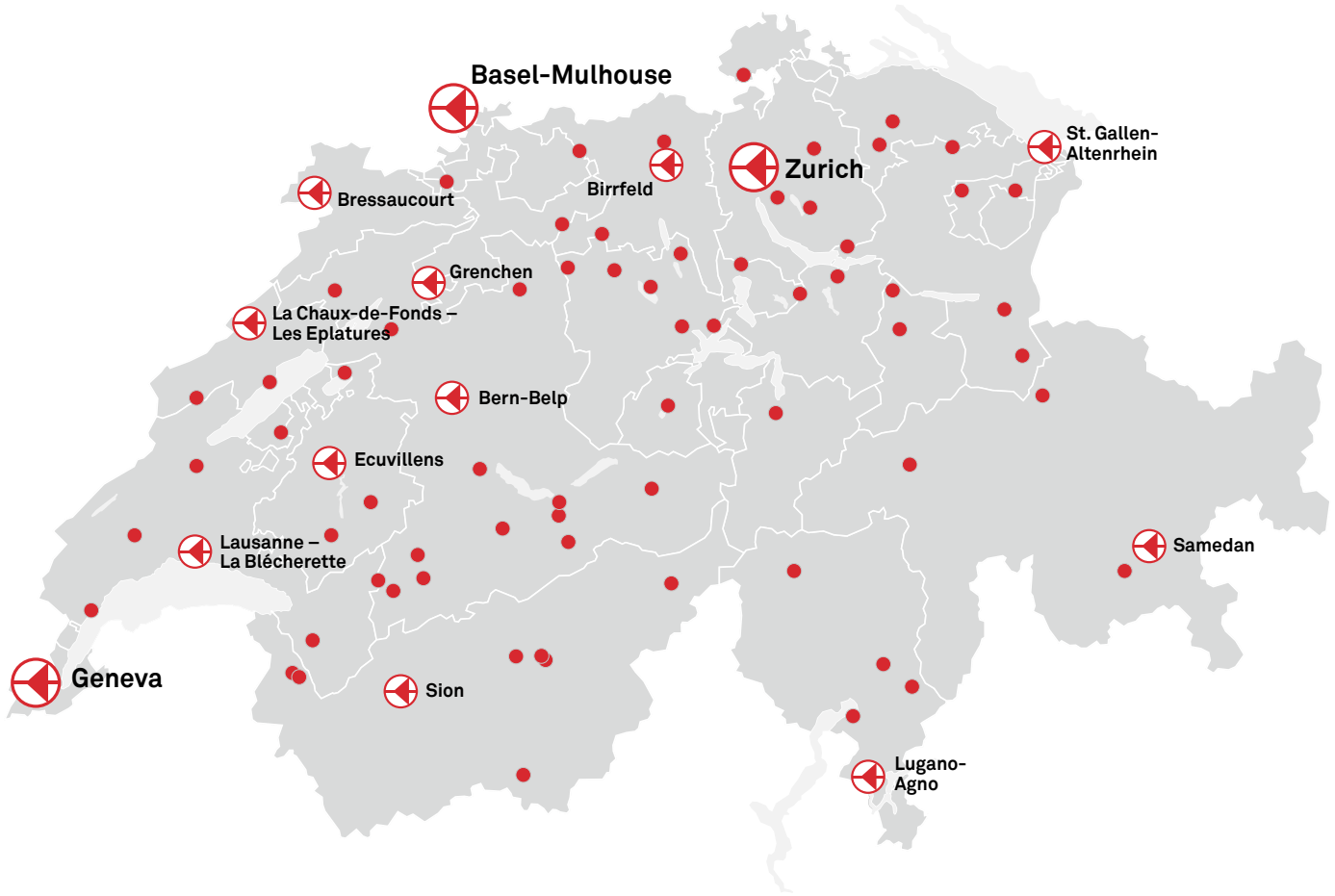
[www.flughafen-zuerich.ch](http://www.flughafen-zuerich.ch)  
チューリヒ空港

[www.gva.ch](http://www.gva.ch)  
ジュネーブ空港

[www.euroairport.com](http://www.euroairport.com)  
ユーロエアポート(バーゼル空港)

## スイスの国際空港と地方空港

(図38)



✈ 国際空港   ✈ 地方空港   ● 飛行場、ヘリポート

出典：連邦民間航空局(BAZL), S-GE独自資料

[www.bazl.admin.ch](http://www.bazl.admin.ch)  
連邦民間航空局(BAZL)

[www.swiss.com](http://www.swiss.com)  
スイス・インターナショナル・エアラインズ

[www.flughafen-zuerich.ch](http://www.flughafen-zuerich.ch)  
チューリヒ空港

[www.gva.ch](http://www.gva.ch)  
ジュネーブ空港

[www.euroairport.com](http://www.euroairport.com)  
ユーロエアポート(バーゼル空港)

[www.aerosuisse.ch](http://www.aerosuisse.ch)  
スイス航空宇宙産業協会傘下組織

[www.aopa.ch](http://www.aopa.ch)  
スイス航空機オーナーおよびパイロット協会

国際企業にとっては、急な出張でもフライトを確実に手配できることがますます重要になってきています。スイスには、複数の国際空港に加えて、ビジネス航空に対応する地方空港が全国にあります。これらの地方空港の大半は、小型ジェット機の利用に適しています。これらの空港は、出張客のために近代的な設備を用意しています。また、通関の実施やシェンゲン協定加盟国(シェンゲン圏)からの旅行者の入国の承認を行えるように設計されています。スイスには、大型空港や飛行場に自社オフィスを構える出張用フライトの提供会社が数多くあります。チャーター機からオペレーティングリースまで、幅広くサービスを提供しています。

## 11.2 通信

スイスでは、トップクラスを誇るICTインフラ(情報通信技術)へのアクセス条件が整っています。スイス一帯がブロードバンドインターネットおよび携帯電話接続が可能な圏内です。スイスでは約99%の世帯がブロードバンドインターネットを利用しています。ネットワークからユーザーへの伝送の最低速度 10 Mbit/s は、2020 年から基本サービスの一部となっています。スイスには世界でも優秀な大学として名を連ねているスイス連邦工科大学チューリッヒ校(ETH Zürich)とローザンヌ校(EPF Lausanne)があり、コンピューター・サイエンス分野ではICT技術者の人材の宝庫として評価されています。また、ICT教育は、スイスで非常に人気の高い職業訓練の一つです。スイスの企業は、国際比較によればテクノロジーに対して好意的で、デジタル変革に必要な新機軸のテクノロジーを取り入れていると評価されています。

[www.bakom.admin.ch](http://www.bakom.admin.ch)  
連邦通信局(OFCOM)

[www.bfs.admin.ch](http://www.bfs.admin.ch) > Look for statistics > Culture, media, information society, sports  
情報社会指標

[www.nic.ch](http://www.nic.ch)  
スイスのドメイン名レジストリ(.ch,.li)

スイスでは約99%の世帯が、ブロードバンドインターネットアクセスを保有しています。

## デジタル競争力

総合評価0 - 100

(図39)

1	米国	100.0
2	香港	96.6
3	スウェーデン	95.2
4	デンマーク	95.2
5	シンガポール	95.1
6	スイス	94.9
7	オランダ	93.3
12	韓国	89.7
13	カナダ	87.3
14	英国	85.8
15	中国	84.4
16	オーストリア	80.9
18	ドイツ	79.3
19	アイルランド	79.2
22	ルクセンブルク	77.4
24	フランス	75.7
28	日本	73.0
40	イタリア	61.8
46	インド	55.1

出典：IMD世界競争力センター、2021年

### 11.3 エネルギー

スイスでは、信頼の置ける安定したエネルギー供給システムが全国スイスでは、信頼の置ける安定したエネルギー供給システムが全国を網羅しています。スイスの総エネルギー消費の約44%は、石油燃料によるものです。2018年度の年間最終エネルギー消費の26%は、スイス国内で発電されたものです。近隣諸国とは異なり、スイスは二酸化炭素排出量が実質的にゼロの発電システムを有しています。スイスにおける最も重要な電力供給源は、水力発電所および原子力発電所です。他国と比べると、スイスは魅力的なエネルギーミックスを比較的低コストで実現しています。しかも、エネルギーの生産コストが、原油やガスの価格と直結することはありません。スイスは、欧州内を相互接続している送電システムと連携し、電力消費が急増する期間中も全土に確実な電力を供給しています。これは、天然ガスや石油など、他のエネルギーに関しても同様です。約3,300か所ものガソリンスタンドを擁する広範な給油所網が、自動車のための燃料を供給しています。スイスの環境政策の一環として、ガソリンとディーゼルに鉱油税が課されており(1リットルあたり約0.80スイスフラン)、税収は特定財源として大部分が道路整備に充てられています(ステアリング税)。環境に優しい燃料を普及させるため、再生可能資源(バイオガス、バイオエタノール、バイオディーゼル、植物性および動物性油等)を原料とする燃料の鉱油税は、2024年末まで全額または一部免除されます。燃料に使用される天然ガスや液化ガスにも、軽減税率が適用されます。

スイスの電力市場は、細分化が進んでいます。関連8社と数多くの小規模発電会社を含む700近い電力会社が電力を供給しています。2009年から(年間10万kWh以上を消費する)大口消費者は、供給元を自ら選択できるようになっています。連邦内閣は、電力市場はすべての顧客に開放されるべきであるという意向を示しています。

[www.bfe.admin.ch](http://www.bfe.admin.ch)  
連邦エネルギー局(SFOE)

[www.stromkunden.ch](http://www.stromkunden.ch)  
大口電力消費者グループ

### 11.4 水

スイスは、水資源に恵まれた国です。欧州の淡水の6%は、スイスアルプスに貯水されています。スイスアルプスの中央にあるゴツアルト山地が分水嶺です。ここからライン川が北海に、ローヌ川が地中海西部に、ティチーノ(ポー)川がアドリア海に、イン(ドナウ)川が黒海に流れ込んでいます。

[www.bafu.admin.ch](http://www.bafu.admin.ch) > Topics > Water  
連邦環境局(FOEN) : 水

#### 11.4.1 飲料水

スイスの水道水は、非常に新鮮でミネラルウォーターに匹敵する純度でありながら、極めて安価です。公共の噴水の水でも、安心して飲むことができます。年間降水量のうち、飲料水の供給に使用されているのはわずか2%です。スイス人が家庭や工業用、商業用に使用する水の量は、1人当たり1日約300リットルです。家庭での平均消費量は、このうちの142リットルを占めています。スイスの水道料金は、1,000リットル当たり平均約2スイスフランです。1日の料金に換算すると、1人当たり0.30スイスフランとなり、3人家族の世帯では、1日当たり0.90スイスフランになります。井戸や湧き水など地下水が消費の80%をまかない、残りは主に湖から取水されています。

[www.trinkwasser.ch](http://www.trinkwasser.ch)  
飲料水

#### 11.4.2 廃水処理と水質汚染管理

欧州の「貯水池」であるスイスは、水質管理に特に力を入れています。長期にわたって水環境を保全・管理していくには、廃水の浄化が必要です。スイスにある多くの湖や川では、最新の廃水処理技術を適用した浄化が行われており、泳いでも健康被害はありません。家庭や工場、事業所、農業からの廃水は、総延長4万～5万kmに及ぶ下水溝を通して処理場に送られます。現在、スイスの全世帯の97%が、全国約800か所の廃水処理場に接続されています。

#### 11.5 郵便制度

郵便サービスは、スイスポストが全国で展開しています(全国共通サービス)。スイスポストは、常に欧州トップレベルの信頼性を誇っています。

近年、郵便市場では、抜本的な変革が行われています。政府主管の郵便制度に加え、競争が認められた分野には多くの民間企業が郵便配達事業に参入してきています。小包配達市場(重量1kgを超える小包が対象)は、2004年に自由化されました。2006年4月からは、所定のライセンスを取得した民間は、100グラムを超える書簡を取り扱うことができるようになりました。国内外で投函された50グラム以下の書簡については、スイスポストが独占権を維持しています。さらなる開放は今のところ進んでいませんが、完全自由化をめぐる議論は行われています。

スイスポストは、スイス全土に密な郵便局ネットワークを有しています。欧州7か国との国際比較によると、スイスは、面積当たりの郵便局の数が最も多く、最寄りの郵便局までの平均距離が最も短くなっています。さらにスイスポストは、海外サービスを含め、倉庫保管による調達から情報物流まで、あらゆる物流ソリューションを提供しています。

[www.post.ch](http://www.post.ch)  
スイスポスト

[www.bakom.admin.ch](http://www.bakom.admin.ch)  
連邦通信局(OPCOM)

#### 11.6 健康医療制度

##### 11.6.1 医療

高度に訓練された医療専門家や著名な病院、一流の医療機関を誇るスイスのヘルスケア制度は、世界でもトップクラスです。国際比較によると、スイスは、国内総生産(GDP)のうち、医療システムに予算をかける割合が最も大きい国です。病院、開業医、歯科医、薬局のネットワークが充実しており、どこであっても外来診療や入院治療を受けることができます。救急車による医療(病院の救急サービス)や空からの救急医療(スイス航空救助隊RegaあるいはTCS)は大変進んでおり、専門的に機能しています。自宅での在宅医療は、Spitexという組織が提供しています。

スイスの出生時平均寿命は、1900年から倍に伸び、現在では平均83歳となっています。

##### 11.6.2 健康保険

スイスでは、在住者全員に基礎健康保険への加入が義務付けられており、それにより優れた医療が保証されています。基礎健康保険は、病気の場合や(場合によっては外国での事故も含めて)損害保険の対象ではない事故の際の医療費をカバーします。健康保険は政府の管轄ではなく、民間の保険会社が提供しています。任意保険の選択も可能です。

[www.bag.admin.ch](http://www.bag.admin.ch) > Insurances > Health insurance  
健康保険の概要